

8 - 4

白血球除去療法の副作用とその対策

佐世保中央病院内科

○岩佐ちさ子、鳥羽清枝、古賀照子、岡美佐、中尾龍子、植木幸孝

（目的）当院では慢性関節リウマチ患者（RA）に対して白血球除去療法（LCP）を年間約50～100症例に施行している。フィルターを用いたLCPは他の体外循環療法に比べ副作用の頻度は少ないとされている。しかしその詳細については報告が少ない。今回、LCPに伴う副作用の頻度、その種類、原因とその対策等について検討したので報告する。

（方法）1997年に当院においてRA患者に施行した253回について検討した。LCPはセレソバ（CS-100、旭メディカル製）を用い、週1回（3000ml血液処理）、原則として計3回施行した。

（結果）1）253回のうち19回に副作用が出現した。19回の中で12回は3000mlの目標処理量まで治療継続できなかった。2）副作用の内訳は嘔気、嘔吐、血圧低下、欠伸、発汗、冷汗、頻脈、発熱等であった。3）副作用に対しては脱血の血流低下や輸液、酸素投与で全例改善した。4）12月～2月に施行した症例で副作用の出現率が高かった。

（結語）LCPは他の体外循環療法と比較して副作用の頻度は低く軽微であり、適切な処置で改善した。

9 - 1 Cryofiltration を施行した慢性関節リウマチ患者の抗ガラクトース欠損 IgG 抗体の検討

キナシ大林病院リウマチ科、*香川医科大学第一内科

○猪尾昌之、明石好弘、光中弘毅*、土橋浩章*、徳田道昭*、倉田典之

Cryofiltration（CF）は慢性関節リウマチ（RA）の治療において寛解導入効果が期待できる治療法の一つであるが、寛解維持には後療法が問題であることを本学会で報告してきた。一方、RA患者のIgG糖鎖の構造異常がリウマトイド因子のリアクタントである可能性が示唆されている。今回我々は、抗ガラクトース欠損IgG抗体を測定し、RA治療におけるCFの効果を評価したので報告する。【方法】エイザイ社製エイテストCA-RFを用い、抗ガラクトース欠損IgG抗体を、CF前、CF治療後および4週後に測定。疾患活動性評価項目はACRコアセット（疼痛関節数、腫脹関節数、患者による疼痛評価、患者による活動性の評価、医師による活動性の評価、MHAQ、CRP値）、血清IgGを同時期に測定した。【対象】治療抵抗性RA患者5症例。女性4例、男性1例。【結果】①健常成人と比べ、RA患者は有意にCA-RFは上昇していた。②CA-RFはCFを施行した結果、血清IgGの変化より有意に低下した。③寛解維持が困難であった症例のCA-RFは低下率が低かった。【考案】今回の検討から、CFの寛解導入効果の一つに、抗ガラクトース欠損IgGの除去効果が反映されている可能性が示唆され、除去効率が悪い場合に寛解維持が困難であると考えられた。